

# 平成 29 年度第 1 回 川崎市多摩川プラン推進会議

## 議事録

■開催日時：2017 年（平成 29 年）10 月 27 日（金）16：00～

■開催場所：ニヶ領せせらぎ館会議室

■出席者（敬称略）

会長	鈴木 誠	東京農業大学 教授
副会長	吉富 友恭	東京学芸大学准教授
委員	齋藤 光正	NPO 法人多摩川エコミュージアム理事
委員	寺尾 祐一	NPO 法人多摩川干潟ネットワーク副代表
委員	佐藤 信雄	味の素株式会社
委員	小野 貴之	富士通株式会社
委員	加藤 純一	市民公募
委員	山下 亜希子	市民公募
委員	梅原 七重	市民公募
委員	羽澤 敏行	国土交通省関東地方整備局 京浜河川事務所副所長

■議事録

### 1. 開会

### 2. 部長あいさつ

### 3. 会長あいさつ

### 4. 議事

- (1) 平成 29 年度実施事業について
- (2) 意見交換
- (3) その他

### 5. 閉会

以下、事務局による資料確認、説明

**平成29年度実施事業報告**

【鈴木会長】 はい。そうすると事業実施についての説明はこれで終わりですね。それでは、皆さんからご質問あるいはご意見をいただきたいと思いますが、ばらばら言っちゃうとあれだから、資料は3枚ありますので上からいきましょうか。最初のやつからまず何かご質問・ご意見がございましたら、上平間と古市場の施設の整備についていかがですか。

【佐藤委員】 じゃ、すみません、よろしいですか。

【鈴木会長】 はい、どうぞ。

【佐藤委員】 駐車場の収容台数を増やすところに関しては、40台を140台に今後するということで、今乗り入れて来られている方々の車は、これでいくと全て収容できて路駐というか、坂道のところには置かないようなかたちでできそうだという見込みなんでしょうか。

【事務局】 はい。多摩川のほかのところにも駐車場がございまして、この地区ですと宇奈根と同じような規模でして、宇奈根のほうは120台でやっており、毎週毎週いっぱいになってしまうということはございません。ですので、ここの地区に関しても140台程度の収容台数があれば十分収容は可能であるという試算の下で計画しているところでございます。

また、有人管理になるので、坂路への駐車もそちらのほうで注意してもらって、この状況は改善されるというところでございます。

【佐藤委員】 ちなみにここは平間が一番近い駅でしたっけ。

【事務局】 平間が近いですね。

【佐藤委員】 やっぱりこのグラウンドを利用されるのは、ほとんど例えば8割とか9割は大体車で利用されに来ているんですか。

【事務局】 そちらも施設によって結構違いますけれども。

【佐藤委員】 違うんですか。やっぱり公共の交通機関も乗って来られる方もいらっしゃる？

【事務局】 はい。特に古市場陸上競技場ですと、マラソン大会とかでスタート地点やゴール地点になることが多いので、そのイベントの案内の中では駐車場はありませんので公共交通機関でお越しく下さいというような、そんな案内もしているところです。

【佐藤委員】 分かりました。ありがとうございました。

【鈴木会長】 スポーツ関連だと、道具なんか運ばなきゃいけないって人たちもいるんですよね。そういうのでどうしても車でないと、という。

【梅原委員】 鹿島田駅から多摩川へ行くまでに結構歩くんですよね。だから、よくぞろぞろ重い荷物を持って歩いているんですけれども、車がないとあそこら辺は本当に不便ですよね。

【事務局】 はい、そういった方々に少しでも便利になるように。

【梅原委員】 でも、上平間から古市場まではすごい、結構ありますから。

【事務局】 ちょっと1キロ近くどうしてもありますけれども。

【梅原委員】 歩くのが大変。

【鈴木会長】 有料の駐車場というのは、川崎市って多摩川の中には他にもあるんですけど。

【事務局】 上平間駐車場以外は、全部有料化しています。

【鈴木会長】 人がいるとここに書いてあるような利用者の利用マナーへの注意喚起というのもやっていただけるというのは、かなり大きいですね。ほかにこれはいかがですか。

また、後で戻ってもいいですので、いかがでしょうか、この2枚目、推進施策の19番目のサイクリングコースの充実については、以下ご質問とかご意見があればお願いしたいんですけれども。

【吉富副会長】 ちょっと質問をいいですか。

【鈴木会長】 どうぞ。

【吉富副会長】 この最後のAEDの設置場所の表示シートがあるんですけれども、実際AED自体が置いてある場所というのはどんな場所なのか。あと、なんかそれ自体もやっぱり視認性を高めないと認識できないので、どういう場所に置いてあるのかちょっとお聞きしたいなと思いました。

【事務局】 今2カ所ございまして、こちらに書いてある多摩川緑地のパークボール場の受付の入り口のところに、AEDのステッカーが貼ってあります。それで、すぐのところに置いてあると。あと、バーベキュー広場に、こちらのほうも入り口のところにAEDのステッカーを貼ってありまして、声を掛けてもらえればいつでも使えるような状況になっています。

【吉富副会長】 それがうまく連動しているといいなと思ったんです。

【事務局】 そうですね。

【梅原委員】 多摩川に木下の製紙工場みたいなものがあるじゃないですか。あそここの道の道はどうなっていますか。

【事務局】 あそこはマンションが建っていますよね。それがスーパー堤防ができたからああいった感じになっておりまして、スーパー堤防がもうちょっと延伸されてきますとあそこもコースを川寄りのほうに通せるように。

【梅原委員】 川寄りになる。

【事務局】 川寄りのほうに通せるようになります。あそこはまだちょっとなかなか交渉が進んでいないですけども。

【梅原委員】 難しいところですね。

【寺尾委員】 すみません、ちょっとよろしいですか。

【鈴木会長】 どうぞ。

【寺尾委員】 先ほどの名称について、私は注意喚起をしていただければサイクリングコースという名称でいいと思うんですよ。最近土手を歩いていますと、結構その注意喚起表示のステッカーが貼ってあるんで、それはそのとおりでいいと思います。

あと、今ちょっとせせらぎ館の齋藤さんとちょっとお話したんですけども、AEDをせっかく設置していただけるならお願いなんですけれども、せせらぎ館と干潟館にあったらもっといいなとちょっと思っています。せせらぎ館のほうも今駐輪スペースみたいなものがありますよね。うちのほうも実はちょっと名称が変わっちゃうんですけども、多摩川河口青少年サイクリングコースには入っているんで、できましたら予算の関係もあると思いますけれども、設置していただければ非常にありがたいなというふうには思っております。

【事務局】 よろしいですか。

【鈴木会長】 じゃ、事務局。

【事務局】 今いただいたご意見についてでございますけれども、せせらぎ館、干潟館にAEDをということで、やはりサイクリングコースが近くを走っているということと、運動施設があったりするというので、AEDが利用施設にあるとやはり安心できるという面はもちろんあります。ということで、ちょっと来年度に向けて設置できるように、今のところ検討しているところでございます。何とか設置できるようにしたいと考えているところでございます。

【鈴木会長】 どうぞ。

【加藤委員】 もしそうしていただくんだったら、うちの施設にお願いしますというよりは、何キロメートルおきに市としてはやっていますとかというふうにしないと、例えば今丸子橋の辺りはもう整備が終わっていますけれども、サッカー場とか硬式野球場とか駐車場もあつたりして、そういう意味ではスポーツをやっている非常に盛んな場所なわけですよ。そこには全くないというのはおかしいと思うので、施設だからあるとかという定義じゃなくて全体を眺めたときに区間ごとに置いていますとか、何キロごとに置いています。あるいは、重点施策のその施設にあつたほうが利点があるんだたらそこに入れましたというような、そういう全体的な発想でちょっとご検討いただいたほうが、多分市民にとってすごく考えて置いていただいているのねというふうになると思うので。

予算がついたからとかではなくて、市民の安全を守るという意味で運動場の近くには必ず置いていますとかいう、そういう定義をできればやっていただいたほうが市民の目からするとすごく説得力があると思うので、ぜひそういう視点も。できれば施設にも入れていただきたいですけれども、そういう視点も加味していただけたらうれしいと思います。

【鈴木会長】 どうぞ。

【事務局】 まずは、AEDに関しましてはやはりメンテナンスとかいろいろなのが必要なものですから、人が配置されている施設ですね。あとは、いたずらとかもありますので、セキュリティの面から、今現在は指定管で管理されているバーベキュー広場とあとはパークボール場。それで、今回来年度に向けて干潟館とせせらぎ館というところで、考えているところがございます。

また、建物がなくても今言われたようにたくさん人が来て運動されているところがありますし、運動しなくても人が集まる場所はたくさんありますから、例えば道路の反対側のコンビニなどにAEDを置いていただくようなかたちの取り組みを、いろいろな協定だとかうまくできればというようなことも検討はしています。

ですので、その辺はご指摘のとおり施設だけではなくて取り組んでいきたいというふうに考えております。以上です。

【梅原委員】 小学校とか幼稚園とかあの近辺にありますよね。そこにもあると思うんですけれども、ここにありますよという表示があれば多少は安心かな。

【事務局】 その辺も進めていかないと、ご指摘のとおりだと思います。

【齋藤委員】 そうですね、ぜひお願いいたします。サイクリングだけでなく、ジ

ヨギングあるいはマラソンですか。そういう競技者が結構多いので、いつ倒れて担ぎ込まれるか分からないのでひやひやしているもので、ありがたいと思います。

【小野委員】 すみません。左下のたぬきやの前に通る舗装イメージなんですけれども、ここは広場になっていまして、このイメージどおりだと広場の真ん中を突っ切るようなかたちでコースができれば、ここは信号があって、人がアクセスしてくる場所なんです。子どもなんかもよく通って、私は地元でよく利用するんですけども、多分走るほうとしても見通しがいいんでスピードを出したくなるようなところだと思うんで、先ほど道路の注意喚起の表示なんかの話もありましたけれども、そういったなんかちょっと減速とかそういったものにつながる工夫をこういった場所では特にしないといけないんじゃないかなと、私も子どもがいるんで心配になったりして。

ちょっと難しいかもしれないですけども、よく駐車場で車なんかは減速帯みたいなものがあると思うんですが、何かそういった工夫が同時に必要なんじゃないか、そういうふうに感じました。

【鈴木会長】 今のはどうですか。自転車と歩行者との共存をちゃんと取らないと。

【事務局】 そうですね。やはり整備するのもいいんですけども、併せてマナー向上というか、歩行者とか通常の利用者の安全性を考えまして、そういった路面標示とかそういったものも併せて準備していく必要があると思っておりますので、順次やってまいりたいと思っております。

【小野委員】 高速なんかでも比較的スピードを落とすようなマークを付けたり、いろいろそういったものもあると思うんで、そんな感じにしていだけたら。

【事務局】 はい。

【加藤委員】 ちなみにサイクリングコースでそんな減速帯とかがあってあるんですか。

【事務局】 減速帯はないですけども、1つイメージ的に言いますと、この資料の右下に設置イメージってありますよね。そちらのところの先に黄色というかあると思うんですよ。これは人の横断が予測されるそういった上りの階段のところですね。そういったところには必ずこういった色で注意喚起をしていたり、あとはゆっくりとかスピード落とせとか、いろいろと路面表示で工夫してはおります。

【加藤委員】 自転車をやっていないんで分かんないですけども、車みたいにボコンボコンとなるようなのはあるのかなと思ったんですけども、世の中にそういうのはないんですか。

【事務局】 そちらまではやっておりません。やはり薄暗くなったり、そういったときにそういうものがあると、事故のほうが怖いものですから。

【加藤委員】 逆に自転車の方は危ないですよ。

【梅原委員】 そこでひっくり返る。

【事務局】 ほかの河川なんかへ行くとやはり、ちょうど出入り口のところには、このサイクリングロードは歩行者が優先で、というような表示が今は結構ありますよね。やっぱりこういうトラブルは多分あるんで、その辺もいろいろなところと調整しながら効果的に事故がないようにやったらと思います。

【鈴木会長】 本格的にやる方たちって、やっぱりスピード出る自転車とかですよ。

【事務局】 ジョギングしていると、朝なんかは危ないですよ。

【鈴木会長】 だから、そういう方たちというのは大体本来はマナーを守るような方だったらいんですけれども、初心者だったりとか、僕ぐらいの年齢で昔ちょっとサイクリングやってたみたいな人がスピード出し過ぎちゃって、反射神経もない分そういうが一番危なかったですね。自分自身で自戒を込めて言っているんですけれども。それでサイクリングコースって、これは先ほどのほかの川でというのは何だけれども、サイクリングコースって言っちゃうと本当に自転車専用道路みたいなイメージになっちゃって、それでスピード出し過ぎちゃうんじゃないかという恐れがあるんですよ。

それを例えば多摩川プロムナードっていえば、プロムナードって本当は散歩道なんですけれども、ずっとつながっているというようなイメージだったりとか、そういうふうになればそこにちょっと間借りして自転車が走っているんだよ、というふうになったらどうかなど。ここは歩行者と自転車用に整備するからあれなんですけれども、荒川なんかは緊急道路で全部舗装したりなんかしてるところがあります。そういうところはもういざとなったら車が通れるようなところなので、そうすると道幅も広くてもうばんばん飛ばしていくような感じで、それで危険な状況があちこちにあるというのも事実なんですよね。ここはどうなるか。

河川ってゆっくりずっと勾配で下りじゃないですか。だから、上流から下流へいくときはいいですよ。荒川なんかもずっと上っていくときは、今度向かい風もあるんだけれどもなかなかきつい。これも危ないですよ、それでスピードを出そうとするから。いろいろな意味で事故がなければいいんだけど、とにかく未然に防ぐためには警察なんかは道路で事故を起こさないためにいろいろなことをやるわけですよ。横断歩道があったり、

見通しを良くしたり、そういうようなことをなるべく考えて、例えばこの橋のところなんかでも、ここは自転車は降りていきましょうとか、歩道でそういうことに徹しているところもありますから。

京都の中心部のところの河原町辺りのところの歩道は、一切自転車は乗り入れ禁止。それで、もし乗り入れた場合は下りないといけないようにしていました。というのはあつと言う間に自転車が多くなっちゃったんで、それで人も多くなっちゃったので、そういう区域を作りましたね。

すみません、京都の話題になっちゃいました。ここの河原町じゃなくてこの川のほうの話題でした。多分前もって分かるようなことが予測されるんだったら、なるべくそれを回避するような、事故のないよう工夫していくというのは大変だけど、でもそれが本当に起こってからではね。

**【梅原委員】** 私は古市場なんですけれども、横断歩道を渡って土手に行きますよね、そこにサイクリングコースがあるんです。よくそこを歩いていたりすると、後ろからリンリンとどけどけみたいな感じで自転車が通ることがあるんですよ。だから、本当にサイクリングコースと言っちゃうと自転車の人が優先みたいな聞こえちゃうんです。だから、ここら辺にきたら少し減速してくださいみたいな表示、サイクリングコースのちょっとここは人が通るから減速してくださいみたいな表示があるといいんじゃないかなと。子どもなんか走って行ってぶつかっちゃうんじゃないかと思って、ちょっと今不安になりました。

**【山下委員】** すみません。

**【鈴木会長】** どうぞ。

**【山下委員】** よく少年野球の子どもたちが自転車で来るんですけれども、自転車を止めるところがサイクリングコースの脇、草のところに止めてあったりとかしてなんか危ないなって。その自転車を取りにいくために子どもが行き来したりして危ないなと思うことがあったので、自転車に来てその後どこに止めるかとか、少年野球の人たちの中で話し合おうべきなのかもしれないんですけれども、何かいい考えがあったらいいなと思いました。

**【梅原委員】** 歩道橋の下に止めてありますよね。

**【山下委員】** そうなんです。なんかバラバラといろいろなところに止めてあります。

**【鈴木会長】** 河川敷に利用施設があるようなところの脇は重点的に減速というか、注意喚起するようなことをやるというのは当たり前にするんだけど、ぜひそういう不安を取り除いておいてもらったほうがいいということですね。

【吉富副会長】 名称の話が出ましたけれども、名称は、これはサイクリングコースって実際に呼ばれているんですか。

【事務局】 呼ばれています。

【吉富副会長】 じゃ、なんかやっぱりさっき会長がおっしゃったそのプロムナードとか、言葉をうまく変えるというのは1つ方法としてはあるんですね。

【事務局】 そうですね、愛称募集だとか、コースがつながったときにいろいろなやり方はあるかと思うんです。

【鈴木会長】 愛称募集というふうにして、結果サイクリングコースになったとしても、これは歩行者と共に使うものですよという啓発になるから、そういうのはやったほうがいいかもしれない。なおかつ、整備されたという宣伝にもなるし。

【寺尾委員】 これは東京側はいかがなんでしょうか。私は大師橋と六郷橋の間ぐらいしかちょっと東京側は行ってないんですけども、もうちょっと道路幅は広くて三角コーンみたいじゃないな、なにか何本かありますよね。スピードを落とさせるためかどうか分からないんですけども、道にポールのようなものが。そんなような感じというのも考えられないですか。

【事務局】 恐らくポールが立っているのは車が乗り入れできないように、ぎりぎりの幅でしたら結構入ってきちゃいますので、そのためかもしれないです。

【鈴木会長】 これは羽澤さんから何かちょっとコメントはありますか。結構あちこちで話題というか、課題になっているところもあるでしょう。

【羽澤委員】 そうですね。別に多摩川だけの問題ではなくて、特に荒川だとかはやっぱりその自転車と歩行者とのトラブルというのが最近やっぱり多いは多いです。1つはやっぱりスピードの出し過ぎもありますし、やっぱりさっき言ったように基本的には歩行者優先でというところの、ちょっと啓発が足りないのかなという気がするんですよ。どっちも仲良く使ってもらいたいんですけども、やっぱりそういうのは使う側のほうの認識もちょっと低いのかなというような、見ているとそんな感じはしますよね。

【佐藤委員】 よろしいですか。

【鈴木会長】 どうぞ。

【佐藤委員】 うちの味の素の前のところで接触等の事故があったことがあったんですよ。名前を結構変えるのは大変かもしれないですけども、どうしてもやっぱりサイクリングコースという名前からしてそこで入ってっちゃいますから、注意喚起というの

あるんですけれども、先ほどあったように名前を少しソフトで歩行者が一番優先の中で自転車も通っていいけれども、気をつけてくださいねのほうが良いと思います。自転車のコースなんだなと思うと、邪魔だよ、どけよという人なんかもいて、やっぱり市民とかも怖い思いをさせてしまうのかなというのがあるんで、名前をもう少しソフトで、できれば先ほどあったように募集とかのときにちょっと介しながら、歩行者優先で十分気をつけて乗ってくださいねというかたちにしないと。サイクリングコースというと、イメージが高速のドイツのアウトバーンじゃないですけども、自転車専用と思っちゃうところが大きいのかなというのは個人的にはちょっと思いました。

【梅原委員】 散歩で歩いている人もいるんですもんね、危ない。

【佐藤委員】 はい。まさに小さい子との接触事故とか結構ありますし、ましてその辺は広さもそんなに広くなかったですから。というのが、名前からしてちょっとやっぱり自転車優先だと思っちゃう人が多くなるのかな。注意喚起ももっとそこら辺でプラスになるかたちであれば、名前も少しソフトにされるような、先生が言われていたようなこととかですね。

【鈴木会長】 というか、もう事業名称でサイクリングコースでずっときているものだから、行政側では変えにくいわけよ。だから、なんか小さくサイクリングコースの名称についてとか枠で囲ってあるものだから、皆さんに注意喚起しないといけないなと思って。やっぱり皆さんの意見があれば、行政のほうもこの事業名称を変えるということ。

【事務局】 元々神奈川県がサイクリングコースという名称でやっていたんです。それを川崎市が引き継いで、今整備している状況なんで。昔のサイクリングコースって親子連れだとか子どもだけで、そんなスピードが出る競技用の今と全く違いますから。ですので、時代が変わっていますし、その辺はもう皆さんのおっしゃるとおりなので勉強していく。内部でもやっぱりその辺は議論していく必要があります。

【梅原委員】 外国人が来てサイクリングするかもしれないじゃないですか。

【事務局】 そうなんですよね。

【梅原委員】 そういうところでまたトラブルがあってはいけないので、やっぱり。

【事務局】 今羽田空港から横断道路を造って32年のオリンピック・パラリンピックまでにそこを開通させるということで、そうするとある程度自転車が来れる状況ができてきますので、それまでにある程度歩行者優先でというのは、きちんとしていかないといけないのかもしれないですね。

【梅原委員】 3年間頑張ってください。

【事務局】 はい。

【鈴木会長】 今齋藤さんが何かご意見。

【齋藤委員】 いろいろお話を聞いているんですけども、ちょうどこのせせらぎ館はこういう情報発信拠点というかたちで僕は捉えているんで、せせらぎ館にサイクリングの人がいっぱい来るんですよ。ここが拠点だって言うんですよ。ここでみんな集まろうよ、それからどこかへ行こう。いろいろな人がここへ集まって、それからどこかへ行くんです。だから、そういう人たちに1回なんかアンケートかチラシか、何かそういうものをきちんと配ってみたいと思うんですけども。今言ったように歩行者優先ですよということを知っているかどうか。それから、どういう方面にどういうふうにご利用するかというのが何かアンケートを作ってもらったら、それを僕らは調査できると思うんですよ。

それはぜひお願いしたいと思うことと、それから溝の口地区に平瀬川が入ってきたところからは人が歩ける災害道路があるから、あそこは結構人がゆっくり歩けるんですよ。あそこから上流はもう土手しかないんですよ。そうすると、やっぱり危ないですね。事故がないようにハラハラしているんですけども、確かにウツというのは何回もあるんです。だから、そういう人たちにどういうふうなマナーでお願いしますというぐらいのチラシを作ろうかなとは思っていたんですが、いいものがあればちょっと考えてもらいたいと。

名称についてもこれが定着しているような気がするんですけども、ちょっとなんか皆さんどういうふうに思っているか。サイクリングコースはもう専用なんだという意識を持っているかもしれないです。それを持っている人に対しては改めなくちゃいけないし、そういう認識は誰かから聞いているかどうかもちょうとよく分からない。今ちょっと考えていたんですけども、われわれとしてはどういうふうにPRしようかな、どんなふうに指導しようかなと思っはいるんですが、何かいい知恵があったら、協力できるものがあったらぜひお願いします。

【加藤委員】 ここが拠点になっているというのは、トイレがあるからですか。

【齋藤委員】 そう、そう。トイレがあるということはいろいろそこで集まるとか、ここで分散するんです。最後にここで、はい、さようならなんて。良い場所なんで何か考えてもらおうとありがたいです。

【鈴木会長】 これについては大体皆さんのご意見が集約されてきているので、これを受けていただいて整備の事業と一緒に同時進行でマナー、ソフト面の規律をぜひお願いし

ます。時間がだんだんなくなって。

【齋藤委員】 これは非常に良い資料なんで、これを自転車の人にお見せしようかと思  
って。30年度はここができるよなんて、そういう情報提供しようと思っているんですけ  
れども、その前になんかマナーのほうが重要かなと思っているんで、併せてちょっと考え  
てみてください。

【鈴木会長】 3枚目のこの利活用のいわばソフトな取り組みなんですけれども、こち  
らのほうの皆さんのご意見、ご質問がなんかたくさんありそうだと思うんで、時間がなくな  
ってきたからと思って。

【吉富副会長】 ちょっとこのことに関連していいですか。

【鈴木会長】 はい。

【吉富副会長】 水辺で乾杯の行事がいろいろあったんですけれども、大塚製薬のセミ  
ナーをやって乾杯という流れがあるというふうにお聞きしたので、なんか今せっかく注意  
喚起ですとか意識の啓発のことがありますので、こういう機会に乾杯の前に少しごみのマ  
ナーに関する事とか駐車場の事とか、あともしかしたらAEDの使い方とか防災に関  
すること、少しセミナーをやって乾杯といううまくイベントを活用するような、そんなこ  
とができればいいかなと思いました。

【事務局】 この際は、熱中症予防のセミナーを大塚製薬さまにやっていただきました。

【梅原委員】 人数が少ないですね、ほかのところはいっぱいなのにここだけ少ない。  
宣伝が足りなかった？

【事務局】 それもあります。元々ゴルフの受付にもなっているんですけれども、ゴル  
フの入れ替えの時間にうまく当たらなくて、ゴルフに出ていってしまう人のほうが多かっ  
たんです。だから、時間設定がうまくいかなかったのもあると思っております。

【吉富副会長】 全国的にもそういう水辺で乾杯の機会にいろいろなセミナーをやる、  
少し普及啓発のことを踏み込んでやっているところが九州のほうでもありますし、せっか  
く良い機会なので。

【事務局】 はい、あとは他地区も参考にして。

【吉富副会長】 その組み合わせを考えて、少し川崎市の課題を何か改善や解決に向  
けて少しできればいいなと感じました。

【加藤委員】 すみません。

【鈴木会長】 どうぞ。

【加藤委員】 この水辺で乾杯の落としどころとかよく分からないんですけども、落としどころというのは何かと。まず、その告知が全然分からないし、いつ誰にそういうのを市側が個別に声を掛けてやったのかとかそれも分からないし、それでどういう成果を求めてやっているのかが全く分からないんですよ。どれぐらいたくさんの人に声掛けてこういことをしたいのか市民を巻き込んでやりたいのか、でもなんか企業色が出ている感じもするし、延べ何百人がやったとかって、だから何だろうというのも正直言っているんです。

ただ、その川崎市の観光のスポットの多摩川を押していくためにたくさんの人を巻き込んでやりたいのか、それとも1つの部署として何か上から言われたからやっているのか、なんかよく分からないんですよ。目標がどこなのか、目的が何なのか正直言ってよく分からない。来年もやるんですかって、来年ちょうど土日なんですよ。

【事務局】 その予定です。7月7日は土曜日なので。

【加藤委員】 最高な時期なんですけれども、どういうふうに市民が絡んでいったらいいのかなというのがよく分からないんです。

【事務局】 今回はきっかけづくりということで、この全国的に展開されている水辺で乾杯というのをいろいろな方と一緒にやってみようということで今回この企画をしたんですけども、狙いとしてはまずは興味を持ってもらうということをまず念頭に置いて、今まで来たことがない人にもやはり多摩川に来てほしいということと、この二子のバーベキュー広場でやったのは、昔はごみ問題から発生しているバーベキュー広場なので少し距離感があって、それを少しずつでも縮めていければという考えもありました。指定管理制度を入れて、指定管理者も地域のごみ拾いとかもして近づく努力はしているんですけども、こういったイベントもきっかけにもう少し地域と近い関係になればなということで、今回は二子の広場でやらせていただきました。

色輪っかつなぎにつきましては、市のほうも「いろいろって、未来」ということでブランドメッセージを発信しているところもございまして、川崎をイメージした20色の折紙を色輪っかにしてつなげるという七夕の企画でございまして、そのブランドメッセージと色輪っかの取り組みが近い関係ということもあって、色輪っかの実行委員会さんにご協力をいただいて今回発信をさせていただきました。

今回狙いとしては、さらにこういった取り組みを発信して多摩川に興味を持っていただきたいということと、この色輪っかつなぎでやったことによって来年はこの色輪っかつなぎさんと多摩川エコミュージアムさんとで協力して、もっと盛り上げていこうといった

話も出てきておりますので、そういった新たなつながりが生まれて、新たな展開を生み出していけると今回のその乾杯をやった成果につながっていくのかなということで、われわれももっと発信力を高めて、皆さんに興味を持っていただけるように努力していきたいと考えております。

【小野委員】 すみません。この水辺で乾杯は小中学校とかにお声掛けしたりとか、そういう連携みたいなことは考えてられるんですか。

【事務局】 この多摩川交流センターでやったときは隣接している高校がございまして、そこに話し掛けようかなと思っていたのですが時間がなくて、もう少しそういった学校さんとの関係とかも視野に入れて今後展開していければと思っています。

【小野委員】 イベントとしては民間活用よりはそちらの小中学生とか教育的な何ていうか、子どもが興味を持つという視点のほうがいいんじゃないかというような気はちょっと感じる。

【事務局】 1つやろうと思った取り組みが、干潟館さんで干潟の取り組みをやって、その後乾杯みたいな流れも頭の中に浮かんだんですけども、干潟に行った後に乾杯をするというイメージが頭の中で整理ができなかったので、どうつなげていけば乾杯に結び付くかなと思ったんですけども、そのシナリオ作りも含めて少し勉強していきたいと思えます。

【小野委員】 乾杯の意味をやっぱり伝えないといけないから、ちょっと難しいところが。

【事務局】 そうですね。ということで、この大塚製薬さまにご協力いただいたところは飲み物を提供していただいて乾杯に結び付くことができましたんですけども、こういったことをわれわれだけではなくて、皆さんにもお知恵を拝借しながら少し取り組みを今後も続けていければと思います。

【加藤委員】 中長期で見たら来年もやるということですか。

【事務局】 そうですね、やります。

【加藤委員】 来年も再来年もやるということですね。

【事務局】 はい、再来年も。全国的にも3年目を迎えておりまして、川崎は初めてやったんですけども。

【加藤委員】 その水辺で乾杯を全国的にとおっしゃるんですけども、それは誰がどういうふうに、首相が言って推進しているんですか。

【事務局】 首相というか。

【加藤委員】 文科省が言ってやっているんですか、それがよく分かんないんですよ、なんか言っている話が。

【吉富副会長】 それは多分国土交通省の羽澤さんのほうがご存じだと思います。国土交通省を中心にミズベリングというサイトもありますけれども、それは全国の水辺のにぎわいを盛り上げようというプロジェクトがあって、それで特に7月は河川愛護月間で、7月7日が川の日なので、それも7時7分に乾杯とかでイベントをスタートして、全国の人たちが、水辺に行かなかったような人たちが水辺に注目して集まったりする機会が徐々にできてきたということなんですよ。

【事務局】 すみません、説明不足で失礼いたしました。

【加藤委員】 だから、やっぱり根本から何でやるの、何で川崎市と一緒に連携するのとかというところがないと、この場で話されても市民がどういうふうに関わったらいいか分かんないんですよ。いきなり大塚製薬とか言われても、ああそうっていう感じになっちゃうんで。

【事務局】 分かりました。

【加藤委員】 だから、そのやっぱり根本をご説明いただくとすごくうれしいなと思いました。

【事務局】 分かりました。ありがとうございます。

【寺尾委員】 これは非常につまんない話ですけども、海の日が祝日であり、山の日が祝日であり、川の日ってあるというのを私は知っていましたけれども、祝日になればもうちょっとやりやすいのかなと思うのが1つと。

【鈴木会長】 それは子どもがうれしいね。

【寺尾委員】 逆にこういうことをやっていただければ、もしかしたら7月7日が川の日で祭日になるかなということかなと思います。

【梅原委員】 7月7日が休日になったらうれしいわ。

【齋藤委員】 そういうことなら、せせらぎ館でも7日を何か事業の一環として一緒にやるとか計画しますよ。そういう取っ掛かりがちょっと今聞いて初めてそうだったのかというぐらいで、申し訳ないと思います。

【事務局】 色輪っかつなぎのときにお会いした多摩川エコミュージアムさまの方ともお話をしながら、来年に向けた話もちょうと出ていましたので、またご相談をさせていた

できればと思います。

【齋藤委員】 分かりました。

【鈴木会長】 新しく始まった取り組みだから、皆さんからいろいろなご意見をいただいてより良くしていくというスタンスで今はスタートしているわけですね。

【事務局】 はい。

【鈴木会長】 ちなみに、さっきの川の流域図を見ていくとやっぱり多摩川の源流のほうに造り酒屋があるので、奥のほうにぜひどうか。僕はすぐ乾杯ということでそういうことを考えちゃう。もうこれはあれか、小澤酒造の澤乃井で乾杯できんのかなと思っちゃったけど、こっちね。そういうのも川の上流まで意識するという多摩川水系の水でというのも。多分お水はここら辺のお水でやるわけでしょう。お酒もたまにはそういうのもいいかなと思って、余計なことをすみません。

【事務局】 今回二子のところはお酒も入れてやりましたので。

【鈴木会長】 そうですか。来年度もこの水辺で乾杯、かわまちづくりのコンテスト、それから夏休み多摩川教室、これも来年度も企画しておるんですか。

【事務局】 コンテストのほうは今年度多摩川ステージが設置されまして、来年度もあるかというのはまだ未定でございまして、それ以外につきましては渡しのスタンプラリーにつきましても、今年はスタンプラリーだったんですけども来年は少し変えようみたいなこともあるかもしれませんが、そういったその地区間の連携という取り組みは続けていきたいと思います。

【鈴木会長】 逆にいうと、今いろいろな情報を仕込んでいて来年、再来年に向けて新しい仕事というか、やってもらうようにしなきゃいけないわけだね、そういうことですよね。だそうですから、皆さん、いろいろなさまざまなお意見を後で何かこの後どうみたいな、17時半から水辺で乾杯の多摩川プラン場があるようですので、そこでもどうぞ言ってくれと。

【事務局】 ご意見をいただきたいと思います。

【鈴木会長】 まだほかにご意見がございましたら。

【山下委員】 すみません。

【鈴木会長】 山下さん、どうぞ。

【山下委員】 まちづくりコンテストで優勝された方の案とかは今後具体的に、今進行中なんですか。

【事務局】 進行しているものもございまして、日本女子大学から提案いただいたプランがございまして、それはいろいろなスポットを回って、多摩区で今ピクニックタウン多摩区というのをやっていて、その1つに多摩川河川敷もその場所になっているわけですが、なかなかピクニックタウン多摩の認知度が上がってこないというところもあって、その取り組みの1つとして地域の方と一緒に地域の食材を使った食べ物をプランしたりとか提供したりとか、あとは多摩川をイメージしたアクセサリを作って展開していこうとかということをやっています。この前学園祭があったんですけどもそこで試験的に販売をして、今度11月19日に秋の収穫祭というのがあり、そちらにも日本女子大が参加して、そういった展開をしていく予定になっています。

そのほかの案については、少しずつ今後大学側と意見交換をしながら、全てできるとは限らないですけども、できるものから学生たちと協力してやっていければと考えております。

【山下委員】 そのコンテストの対象者はどうやって募集されるんですか。

【事務局】 それはもう任意でございまして、大学生であれば誰でも応募はできるということで、われわれが展開したというよりはJTBが中心になって展開しているコンテストでございまして、この川崎市を会場にたまたま選んでいただきました。

【山下委員】 じゃ、JTBさんがもうずっと続けてそういうことをやられていた。

【事務局】 今年で8回目になります。

【山下委員】 そうなんですね。

【事務局】 毎年JTBさんがこういうかたちで観光まちづくりコンテストというのをやっています、今年度がたまたま。

【山下委員】 川崎。

【事務局】 多摩川ステージというのがテーマということで、それに基づいてわれわれが取り組みを今年度やっていくということになっております。

【山下委員】 分かりました。

【鈴木会長】 どうぞ。

【寺尾委員】 2点お聞きしたいんですけども、ちょっと私は時期を忘れてしまいましたけれども、多摩川のマラソンコースで、恐らく土かなんかを固めるときに、石灰をまきますよね。それで、やけどされた方がいるというのをちょっとニュースで見たんですけども、それはどんなような状態だったのかなと思って、お分かりになれば教えていただ

きたいのが1点と。

あとは、先ほど部長のほうからお話がありましたように、オリンピック年度に向けて大師橋の下流に1つ大田区との間に橋が完成するんですね。その工事が着工したと思うんですけども、その工事現場の近くに、河口に住む生物たちの展示をするというようなお話を聞いているんですけども、それは川崎市の環総研で行うのかどうかという2点。ちょっとこれは多摩川プランと関係ないかもしれませんが。

【鈴木会長】 議題でいくとその他で聞いてよろしいですか。

【寺尾委員】 じゃ、その他でお願いします。

【羽澤委員】 1点目は多分緊急河川敷道路の関係で、ちょっと私は直接担当しているわけではないので詳しいことは分からないですけども、石灰と配合させるんですけども、その配合をちょっと誤ったというのが元々の原因でして、被害者の方が軽いやけどをされたというふうなかたちになって、一応被害者の方とは話し合いは今のところついています。そのところはもう全て直しましたので今の段階ではもう問題ないと聞いています。

【事務局】 2点目については、広域道路整備室というのがございまして、そちらでやっていますので情報が分かりましたらご連絡差し上げます。

【寺尾委員】 分かりました。

【鈴木会長】 すみません。時間がなんかもうだいぶ、5時までなのかな、過ぎてきちゃったので、その他にいきなりいっちゃいましたけれども、あとはもしご意見何かあればお願いしたいと思っておりますけれども、よろしいでしょうか。それでは、進行を戻しますのでよろしく。

【事務局】 ありがとうございます。本日は鈴木会長はじめ委員の皆さん方から活発な意見、議論等貴重なご意見をいただきましてありがとうございます。事務局といたしましては、本日いただきましたご意見をしっかり受け止めまして、川崎市の新多摩川プランに基づく施策の推進にさらに進めてまいりたいと思いますので、今後ともよろしく願いいたします。

次回の多摩川プランの推進会議につきましては来年の2月ごろ、去年と似たような感じの時期を予定しておりますので、時期がまいりましたら事務局よりご案内を差し上げますのでよろしくお願いいたします。

あとは、今日はチラシをお渡ししたんですけども、イベントのご案内なんですけれども、丸子の渡し祭りです。これが今度の日曜日です、29日。それと二子の渡し体験、こ

ちらは11月3日の祝日の日。それで多摩川渡し場サミット、これが11月23日の祝日の日というところがございますので、よろしければ皆さん、足を運んでください。

あと1点、吉富副会長のほうから資料をいただきまして、こちらのほうをもし、副会長、よろしければ。

**【吉富副会長】** 学芸大でアメリカのコカ・コーラ財団から支援をいただいて、5年間のプロジェクトで1年目が終わったんですけれども、水辺のいろいろな場所を巡って、大学生がいろいろな魅力を見つけていって、それを教材にしていくというプロジェクトを始めたので、皆さんにも多摩川の流域でお世話になるかもしれませんので、こんな活動をしていますというご紹介です。よろしくお願いします。

**【事務局】** ありがとうございました。

それでは、以上をもちまして平成29年度第1回川崎市多摩川プラン推進会議を閉会させていただきます。本日は、お忙しい中本当にありがとうございました。

**【一同】** ありがとうございました。